

編集後記

獨協大学大学院外国語学研究科ドイツ語学専攻の大学院生たちによる、大学院紀要『BRÜCKE』の第30号をお届けいたします。

今号では論文3本、翻訳1本の投稿がありました。さらにいつものカテゴリーだけではなく、せつかくの第30号だから何か企画しようという話が2016年の初夏に持ち上がり、本誌に掲載されている特集として結実しました。編集委員会の少ない人員のあいだで「企画のアイデア」と「実際にできること」の狭間で試行錯誤を重ねながらも、なんとか形になったことで安堵しています。年表の作成にあたり、創刊号へ遡って「巻頭言」、「特集」、「編集後記」をすべて読み直したのですが、私たち自身がそれを機会に『BRÜCKE』について多くを学びました。先生方からのメッセージはどれも色褪せておらず、今の大学院生たちにも大切な言葉で溢れていることは大きな再発見の一つでした。

この度の特集では、ご多用にもかかわらず、コンテンツの原稿執筆を快くお引き受けくださった柿沼義孝先生と大重光太郎先生に心からお礼を申し上げます。ご退職された先生方とOB・OGのみなさまにも、年表と総目次の訂正確認のことでお世話になりました。「巻頭言」を書いてくださった高橋輝暁先生、大学院事務室のみなさま、そして2016年度の大学院委員として編集委員会に関わっていただき、文章表現や作業全般についてご教示くださった工藤達也先生に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

なお末筆となりますが、今号からの掲載紙面は「獨協大学学術リポジトリ」でオンライン公開されます。それに応じて、本誌の「投稿規定概略」に新しく一文を加えてありますので、この場を借りてご案内させていただきます。

今後ともみなさまからのご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2017年5月
BRÜCKE 第30号編集委員会